

令和5年8月19日

各位

株式会社 神戸マツダ
代表取締役社長 橋本 寛

当社におけるDX戦略について

1. はじめに

現在の日本経済を取り巻く環境は、少子高齢化を背景に労働需給が一段と逼迫する中、長時間労働の是正や同一労働同一賃金を目的とした働き方改革関連法が順次施行されております。一方で2020年に拡大したCOVID-19の影響もあり、さまざまな分野でデジタルによる革新が急激に進み、自動車業界に対する社会のニーズは益々多様化の様相を呈しております。

当社は経営方針として「Value Changer (バリュー・チェンジャー) ～そこまでやるか? やるんです～」を定め、2030VISIONを掲げました。私たちの価値観を変えていくことにより、これからのお客様の保有価値・使用価値向上を徹底して追求し、ユーザー体験が中心のサービスドミナント企業としてお客様のカーライフは勿論のこと、社会全体を豊かにしていきたいと考えています。変化の激しい時代に向け、単なるデジタルの導入ではなく「デジタルの活用による変革」を実現する為、当社はデジタルイノベーションを積極的に活用し、この変わりゆく環境に柔軟に対応しつつ、お客様がより満足されるサービスを誠実に、安全に迅速に提供するべく社を上げて取り組んでまいります。

2. DX戦略概要

経営構造変革の促進を図るため、以下の3つの重点施策に取り組んでまいります。

(1) デジタル化とデータ活用による業務プロセスの改善とサービスの変革

デジタル革新による社会の急激な変化と少子高齢化による人材不足の影響により、当社ビジネスは大きな変化を求められております。当社は、従来の手法にとらわれることなく積極的にIT技術を活用することで、ペーパーレス化とリアルタイムデータ活用を促進し、変化・多様化するニーズに応えるとともに業務プロセスの改善と品質の向上に努め、バリュージャーニー型への変革を図り、UX(User Experience)・EX(Employee Experience)の向上を図ります。

(2) 各種災害に対するBCP対策の強化、社内ネットワーク再構築によるセキュリティの強化

近年、異常気象による事業への影響が次第に顕在化してきており、業務資料やデータを自社内に保管するだけでは、災害など不測の事態に見舞われた際、被害によりそれらが失われるリスクが高くなっております。そのような有事の際におけるシステムの安定稼働とデータの一元化と保護を図るため、データセンターへのシステム移設を行っています。また、社内ネットワーク環境の整備によるセキュリティの向上を図ります。

(3) レガシーシステムの撤廃による持続可能なシステムの構成

IT 関連の技術は年を追うごとに変化しており、古くなったレガシーシステム※1では最新のプログラムや要求される情報処理の能力・量に対応することが難しい為にシステム障害が発生するリスクが高まる上、補修や機能追加などを度々繰り返すことでブラックボックス化したレガシーシステムでは、システム障害が重症化する傾向があるとされています。その他、度重なるカスタマイズによる処理パフォーマンスの低下、保守対応できる技術者の高齢化による人材不足などの問題が発生します。これらの諸問題や変化するビジネスモデル、技術進歩などに対応する為、クラウド等を活用致します。

※1…過去の技術や仕組みで構築されているシステムを指す用語です。1980年代に多くの企業が導入したメインフレームやオフコン（オフィスコンピューター）を使ったシステムを主にレガシーシステムと呼びます。

3. DX 推進体制

- (1) 当社代表取締役社長を統括責任者とし、その直轄組織であるICT Gr部長を実務責任者とします。ICT Grは各部署の実務担当者と協議を行い、要件定義をしながら不合理のない全社連携の業務体制を確立します。
- (2) 定期的にCFO、監査役を含めた推進会議を実施し、方向性の確認や進捗状況のPDCAを廻しています。
- (3) 全社員向けのデジタルリテラシー向上、現場のDX担当者の育成の為、リスクリングを含めた研修を強化します。

4. システム環境整備体制

社内システムインフラの設計・メンテナンスを担当するICT Grが、社内システムの要件定義から導入までプロジェクトマネジメントを行い、DX 戦略概要に記載した3つの重点施策の推進を図ります。それぞれのシステム改善案件は費用対効果を基に実施を判断しており、CFO、監査役と相談し毎年予算化された費用から投資を行っています。

5. 達成度を測る指標

戦略施策の進捗をもってDX 戦略の全社的な達成度の指標とします。各施策の進捗状況につきましては、別途、当社HPにて公表いたします。